SONY® 2-650-678-**04** (2)

TV (1–3ch)・FMステレオ/AMラジオ

取扱説明書•保証書

お買い上げいただきありがとうございます。

⚠警告 電気製品は安全のための注意事項を守らないと、火災や人身事故になることがあります。

この取扱説明書と別冊の「安全のために」をよくお読みのうえ、製品を安全にお使いください。
お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください

SRF-S27

* 2 6 5 0 6 7 8 0 4 * (2)

© 2005 Sony Corporation Printed in China

品 名	ラジオ
型 名	SRF-S27
保証書	T10-1001A-4

ここに保証書が入ります

Complete the film by inserting the warranty at this position.

在此處插入保證書完成菲林。

在此位置插入保证书以完成胶片。

主な特長

- FMステレオ放送をステレオイヤーレシーバーでお楽しみいただけます。
- 高感度、高選択度設計。
- 放送局を受信すると、同調インジケーターが点灯。
- FMステレオ、FMモノラルの切り換えができます。

使用上のご注意

取り扱いについて

- 落としたり、強いショックを与えたりしないでください。故障の原因になります。
- 次のような場所には置かないでください。
  ー温度が非常に高い所(40℃以上)や低い所（0℃以下）。
  ー直射日光のあたる場所や暖房器具の近く。
  ー風呂場など湿気の多い所。
  ー窓を閉めきった自動車内(特に夏季)。ほこりの多い所。
- ラジオ内部に液体や異物を入れないでください。
- 汚れたときは、柔らかい布でからぶきしてください。シンナーやベンジンは表面をいためますので使わないでください。
- このラジオのテレビ音声受信回路は、FM放送の受信回路と兼用であるため、一部の地域では、テレビ2、または3チャンネルの音声を受信中、FM放送が混じって聞こえることがあります。
  このときは、ソニーの相談窓口または、お近くのソニーサービス窓口にご相談ください。
- キャッシュカード、定期券など、磁気を利用したカード類をスピーカーに近づけないでください。スピーカーの磁石の影響でカードの磁気が変化して使えなくなることがあります。
- イヤーレシーバーをご使用中、肌に合わないと感じたときは早めに使用を中止して医師またはソニーの相談窓口、ソニーサービス窓口に相談してください。

イヤーレシーバー（両耳用）で聞くときのご注意

イヤーレシーバーは、音量を上げすぎると音が外に漏れます。音量を上げすぎて、まわりの人の迷惑にならないように気をつけましょう。
雑音の多いところでは音量を上げてしまいがちですが、いつも呼びかけられて返事ができるくらいの音量を目安にしてください。

万一故障した場合は、内部を開けずに、ソニーの相談窓口またはお買い上げ店、ソニーサービス窓口にご相談ください。

よくあるお問い合わせ、解決方法などはホームページをご活用ください。 **http://www.sony.co.jp/support**

使い方相談窓口
フリーダイヤル・・・・・・・・・・・・・・・0120-333-020
携帯電話・PHS・一部のIP電話・・ 0466-31-2511

修理相談窓口
フリーダイヤル・・・・・・・・・・・・・・・0120-222-330
携帯電話・PHS・一部のIP電話・・ 0466-31-2531
※取扱説明書・リモコン等の購入相談はこちらへお問い合わせください。

左記番号へ接続後、最初のガイダンスが流れている間に
「304」＋「#」
を押してください。直接、担当窓口へおつなぎします。

FAX（共通）0120-333-389 **受付時間** 月〜金:9:00〜20:00 土・日・祝日:9:00〜17:00

ソニー株式会社 〒108-0075 東京都港区港南1-7-1

保証書とアフターサービス

保証書

- 所定事項の記入および記載内容をお確かめのうえ、大切に保存してください。
- 保証期間は、お買い上げ日より1年間です。

アフターサービス

調子が悪いときは

この説明書をもう1度ご覧になってお調べください。

それでも具合の悪いときは

ソニーの相談窓口またはお買い上げ店、お近くのソニーサービス窓口にご相談ください。

保証期間中の修理は

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

保証期間経過後の修理は

修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料修理させていただきます。

部品の保有期間について

当社ではラジオの補修用性能部品（製品の機能を維持するために必要な部品)を、製造打ち切り後6年間保有しています。この部品保有期間を修理可能時期とさせていただきます。保有期間が経過した後も、故障箇所によっては修理可能の場合がありますので、ソニーの相談窓口またはお買い上げ店、サービス窓口にご相談ください。

主な仕様

受信周波数	FM：76〜108 MHz（TV1−3チャンネル*[1]） AM：530〜1,605 kHz
スピーカー	直径3.6 cm、丸形 8Ω 1個
出力端子	∩（ヘッドホン）端子（ø3.5mm ステレオミニジャック）
実用最大出力	90 mW(JEITA*[2])
電源	DC 3 V、単4形乾電池2本
最大外形寸法	約61×97×20 mm（幅/高さ/厚さ）（JEITA）
質量	約102 g（乾電池、イヤーレシーバー含む）

*[1] 地上アナログテレビ放送は2011年7月までに終了することが、国の法令によって定められています。地上アナログテレビ放送終了後は、本機ではテレビの音声を聞くことはできません。

*[2] JEITA（電子情報技術産業協会）規格による測定値です。

付属品

ステレオイヤーレシーバー（1）
ソニー単4形乾電池（お試し用*）（2）
取扱説明書・保証書（1）

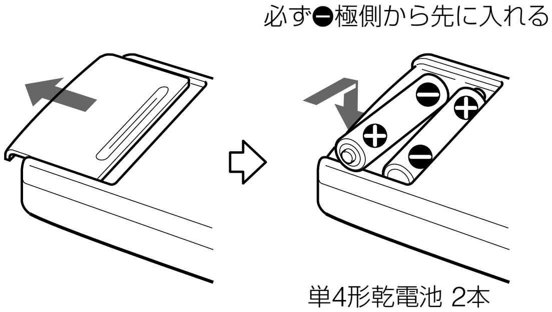
* 付属の乾電池はお試し用です。購入する場合はソニーアルカリ乾電池をおすすめします。

本機の仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがありますが、ご了承ください。

eco info

主なはんだ付けに無鉛はんだを使用。
主なプリント配線板にハロゲン系難燃剤を不使用。
イヤーレシーバーコードに塩ビ不使用。

乾電池を入れる



1 電池入れのふたを開ける。

2 乾電池を入れる。

3 ふたを閉める。

乾電池の持続時間

（単位：約 時間）　　（JEITA*）

放送の種類		FM(TV1-3ch)	AM
ソニー単4型（LR03）	イヤーレシーバー使用時	95	112
アルカリ乾電池	スピーカー使用時	40	42
ソニー単4型（R03）	イヤーレシーバー使用時	42	51
マンガン乾電池	スピーカー使用時	17	19

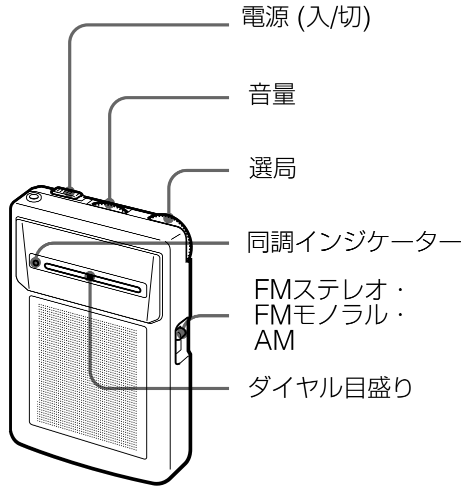
* JEITA（電子情報技術産業協会）規格による測定値です。実際の電池持続時間は使用する機器の状況により変動する可能性があります。

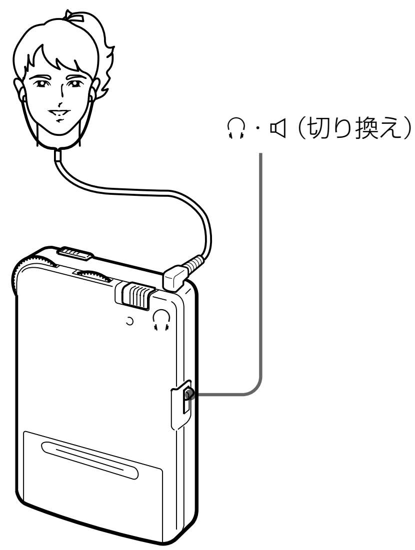
乾電池の交換時期

乾電池が消耗してくると、音が小さくなったりひずんだりします。そのときは、2本とも新しい乾電池に交換してください。

ラジオを聞く

スピーカーまたは付属のステレオイヤーレシーバーで聞くことができます。





1 **ステレオイヤーレシーバーで聞く場合、∩(ステレオイヤーレシーバー)端子にステレオイヤーレシーバーをつなぐ。**
スピーカーでFM(TV1-3ch)放送を聞く場合も、ステレオイヤーレシーバーのコードがアンテナとして働くので、必ずステレオイヤーレシーバーをつないでください。

2 **電源スイッチを入にする。**

3 **∩・◁ (ステレオイヤーレシーバー／スピーカー) スイッチで∩または◁を選ぶ。**
∩に合わせるとステレオイヤーレシーバーから、◁に合わせるとスピーカーから音が聞こえます。

4 **FMステレオ・FMモノラル・AMスイッチでバンドを選ぶ。**
FMステレオ： FMステレオ放送をステレオイヤーレシーバーで聞くとき
FMモノラル： FM放送で電波が弱く雑音が気になるとき
AM： AM放送を聞くとき
TV(1-3ch)放送を聞く場合はFMに合わせます。

5 **選局つまみで選局する。**
放送を受信すると同調インジケーターが点灯します。

6 **音量つまみで音量を調節する。**

電源を切るときは

電源スイッチを切にします。

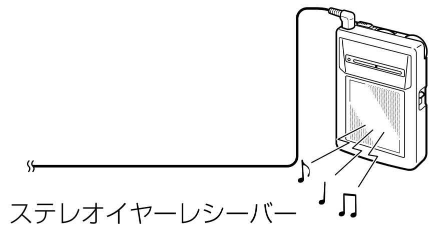
FM放送の雑音が多いときは

FMステレオ・FMモノラル・AMスイッチをFMモノラルにします。ステレオではなくなりますが聞きやすくなります。

受信状態を良くするには

FM（TV1-3ch）放送の場合

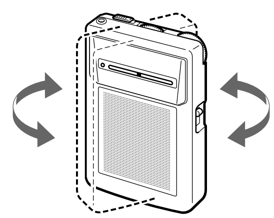
ステレオイヤーレシーバーのコードがアンテナとして働きます。コードをできるだけ長く伸ばしてお使いください。
FM(TV1-3ch)放送をスピーカーから聞く場合も、ステレオイヤーレシーバーのコードがアンテナとして働くので、必ずステレオイヤーレシーバーをつないでください。



- 乗り物やビルの中では電波が弱められるので、なるべく窓際でお聞きください。

AM放送の場合

AMアンテナは内蔵されているので、ラジオ本体の向きによって受信状態が変わります。最も良く受信できる向きにしてお聞きください。



地上アナログテレビ放送は2011年7月までに終了することが、国の法令によって定められています。地上アナログテレビ放送終了後は、本機ではテレビの音声を聞くことはできません。